



杉山 幹夫さんに感謝状を贈呈

1月18日、杉山 幹夫さん(笠松町名誉町民)に感謝状を贈呈しました。文化財改修事業費として杉山さんから寄附された300万円を活用し、国の登録有形文化財に登録されている杉山邸を改修しました。

杉山邸は平成21年に町へ寄贈され、現在は情報発信や人の集まる「まちの駅」として、また、歴史と文化のまち笠松の魅力を発信する拠点として、笠松を語り継ぐ会により運営されています。



笠松町×岐阜聖徳学園大学 共同研究報告会

12月17日、笠松中央公民館で、笠松町と岐阜聖徳学園大学の共同研究報告会を開催しました。

町と岐阜聖徳学園大学は、令和元年11月に包括的連携に関する協定を締結し、令和2年度から「感染症流行下を想定した自然災害時の避難所運営のあり方」について共同研究を進めてきました。

報告会では、新型コロナウイルス感染症に対応した「新しい避難様式」に関する研究をテーマに大学の4人の先生が発表し、参加者の皆さんは真剣な様子で耳を傾けていました。



空き家対策シンポジウム

1月12日、岐阜市のじゅうろくプラザで、笠松町と空き家対策の協定を締結している(一社)ハウスサポートが「空き家対策シンポジウム」を開催しました。

シンポジウムでは各務原市、関市、笠松町の市長、町長が登壇し、高齢者が所有する家屋が空き家となるケースが多いなど、各自治体が抱える空き家の課題を共有し、空き家対策について話し合いました。



起業体験プログラムを開催

1月7日、町内の中高生による起業アイデアコンテストを開催しました。

参加者は講演会やワークショップで起業のノウハウを学び、自由な発想で事業計画を立てコンテストに臨みました。

1位は「人とまちとお店がつながるSNS」事業をプレゼンした高校生の須田 一風さんが受賞し、先輩起業家の審査員から創業や上場も夢ではないと講評されました。